

# ポルトガル月報

2011年5月号

在ポルトガル日本大使館

(本報は当館が報道等公開情報よりとりまとめたものです。)

## 主要ニュース

- EU・IMFによる対ポルトガル財政支援合意覚書 (MoU) 発表 (5日)
- 対ポルトガル財政支援のEUによる承認 (17日)
- ソクラテス社会党 (PS) 書記長とコエーリョ社会民主党 (PSD) 党首のTV討論 (20日)

## 内政

### ●カヴァコ・シルヴァ大統領の演説 (6日)

6日夜、カヴァコ・シルヴァ大統領は国民に向けて、EU・IMFによる対ポルトガル財政支援合意に関して演説を行った。大統領は演説の中で、今後は生産能力以上の消費を行うことはできず、市場の信用を回復するのは長い道のりとなるが、この変化のチャンスを活かさなければ将来さらに重大な困難に直面することになるとのメッセージを発した。

### ●GNR (共和国警備隊) 創設100周年 (7日)

GNR創設100周年を迎え、同記念式典がジェロニモス修道院前のインペリオ広場にて実施された。同式典はカヴァコ・シルヴァ大統領が主催し、GNRに対し自由勲章が授けられた。

### ●社会民主党 (PSD) 選挙プログラムの発表 (8日)

PSDは全国役員会を開催し、6月5日の総選挙に向けて同党の選挙プログラムを発表した。同プログラムでは公共支出の抑制、EU・IMF合意案よりも踏み込んだ国営企業の民営化路線、社会保障・教育分野改革等で小さな政府を目指す姿勢を打ち出している。

### ●ソクラテス社会党 (PS) 書記長とコエーリョ社会民主党 (PSD) 党首のTV討論 (20日)

ソクラテスPS書記長とコエーリョPSD党首はRTP (国営放送) にてTV討論を行った。福祉国家のあり方、政治・経済危機の責任の所在が討論全体を通じての主要テーマとなった。

ポルトガル月報

## 外交

### ●韓国大統領特使のポルトガル訪問 (2日)

韓国ハンナラ党前代表のパク・クネ氏が韓国大統領特使としてリスボンを訪問し、カヴァコ・シルヴァ大統領と会談を行った。本年は、ポルトガルと韓国の外交関係開設50周年にあたる。

### ●第29回ポルトガル・米国常設二国間委員会 (5日)

ワシントンにて、ポルトガル・米国常設二国間委員会が開催され、両国は貿易、科学技術・エネルギー、アソーレス諸島等における協力関係を確認するとともに、ハイレベルでの政治対話の重要性について一致した。

### ●アマード外相のリビア・コンタクトグループ会合出席 (5日)

5日、アマード外相はローマで開催されたリビア・コンタクトグループ会合にオブザーバー参加。会合ではリビアに平和をもたらすための取り組みが議題となった。

### ●アマード外相のブルガリア訪問 (6日)

アマード外相はソフィアにてブルガリア外務省及び欧州外交評議会主催の中・東欧と北アフリカ・中東の変化に関する会議に出席した。同会議にてアマード外相は北アフリカ及び中東でEUの果たしうる役割につき演説を行った。

## ● アマード外相のカタール及びエジプト訪問（9～11日）

アマード外相は9日～11日にかけてカタール及びエジプトを訪問した。カタールではドーハ国際フォーラムの開所式典に参加、演説を行い、エジプト訪問中はAl Araby 外務大臣と同国の体制変革、エジプト・EU関係について会談を行った。

## ● クラヴィーニョ副大臣の第4回国連後発開発途上国会議出席（9～12日）

クラヴィーニョ外務・協力担当副大臣はトルコにて開催された第4回国連後発開発途上国会議（LDC）に出席した。同会議でクラヴィーニョ副大臣は「MDG's 達成のための新たなファイナンス」というテーマで演説を行った。

## ● ロルティ副大臣の欧州評議会閣僚理事会出席（10～11日）

ロルティ欧州担当副大臣はイスタンブールで開催された欧州評議会閣僚理事会に出席した。同会議においてロルティ副大臣は「女性に対する暴力及びドメスティックバイオレンス防止条約」に署名を行った。

## ● ロルティ副大臣のEUの貿易のための外務理事会出席（13日）

ロルティ欧州担当副大臣はブリュッセルで開催されたEUの貿易のための外務理事会に出席した。同会議では日・EUサミットなどが議題となった。

## ● アマード外相の東ティモール訪問（19～22日）

アマード外相は19日～22日にかけて東ティモールを訪問した。同地訪問中はジョゼ・ラモス・オルタ大統領、シャナナ・グスマン首相、ザカリーアス・コスタ外相と会談を行った。更にアマード外相は国連東ティモール統合ミッション（UNMIT）に参加中のGNR（共和国警備隊）と同国在住のポルトガル人コミュニティを訪問した。

## ● クラヴィーニョ副大臣のOECD設立50周年記念ウィーク（25日）参加

クラヴィーニョ外務・協力担当副大臣はパリで開催されたOECD設立50周年記念ウィークに参加した。24日から26日に開催された閣僚理事会では経済成長と雇用の新たな源泉、男女平等、グローバルな開発

がテーマとなった。

## ● ラトコ・ムラディッチ被告拘束に対するポルトガル政府声明（26日）

ボスニア・ヘルツェゴビナ内戦当時のセルビア人将軍で集団虐殺及び人道に対する罪により指名手配されていたラトコ・ムラディッチがセルビア国内で拘束されたこと受け、ポルトガル政府はムラディッチ被告の拘束はセルビアの法の支配の確立を意味するとともに、国際司法の勝利であり、同国のEU加盟に向け重要な要素であるとの声明を発出した。

## 経済

## ● ソクラテス首相によるEU・IMFによる対ポルトガル財政支援条件骨子の発表（3日）

3日夜、ソクラテス首相は急遽、サントス財務相立ち会いのもと、首相公邸において国民向けに演説を行い、欧州委員会、欧州中央銀行、国際通貨基金の専門家チームとポルトガルへの財政支援条件に関し合意に至った旨述べ、その骨子を発表した。詳細は5日に発表された。

## ● オリーブオイルの輸出量が輸入量を上回る（3日）

オリーブオイル協会の報告書によれば、過去30年間で初めてオリーブオイルの輸出量が輸入量が上回った。背景にはオリーブ産業の近代化とブラジルによる当国産オリーブオイルの消費増加があると見られている。

## ● EU・IMFによる対ポルトガル財政支援合意覚書（MoU）発表（5日）

サントス財務相はEU・IMFとの対ポルトガル支援覚書（MoU）を発表した。総額780億ユーロ（EU：520億ユーロ、IMF：260億ユーロ）。同覚書はポルトガルの競争力強化、均衡財政、金融部門の安定を目的とした種々の施策の履行を求めている。

## ● 三菱ふそうトラックの稼働停止（16日）

トラマガルの三菱ふそうトラックの工場が東日本大震災の影響で日本よりの部品調達ができないため5月16日から27日まで稼働停止されることとなった。

## ● 対ポルトガル財政支援のEUによる承認（17日）

EU・IMFによる対ポルトガル財政支援（3年間

で総額 780 億ユーロ) が 17 日に開催された EU 財務相会合で承認された。

### ●ベージャ空港に初の民間チャーター便が到着 (19 日)

アレンテージョ地方ベージャ空港 (4 月 13 日初の商用便が離陸) にロンドンから初の民間チャーター便が到着した。ロンドン・ベージャ間は週 2 2 便のチャーター便が運航する。但し 19 日の乗客は僅か 4 名であった。

## 社会・その他

### ●ラテン語賞授賞式 (4 日)

2010 年ジョアン・ネーヴェス・フォントウラ・ラテン語受賞式がカモンイス院にて実施され、作家のリリディア・ジョルジ氏が受賞した。同賞はラテン文化の普及に貢献した個人、団体に授与され、本年のプレゼンターはロルティ欧州担当外務副大臣が務めた。

### ●ポルトガル政府 (各省) HP のアクセスの容易さ (5 日)

Journal of Information Technology&Politics による国連加盟国政府 HP のアクセスの容易さに関する調査で、ポルトガル政府 (各省) の HP が 2 位にランクされた。1 位がドイツ、3 位にスペインとなっている。

### ●2010 年度 Bial (※) 賞 (6 日)

6 日、ミーニョ大学にて Bial 医学賞受賞式が行われ、脳卒中とアルツハイマーの関係に関する研究が評価された西オンタリオ大学 (カナダ) の脳神経学者 Vlamidir Hachinski が受賞した。賞金は 20 万ユーロ。

(※: ポルトガル最大の製薬会社)

### ●欧州ビジネススクール・ランキングにカトリカ大学及びリスボン新大学がランクイン (9 日)

ファイナンシャル・タイムズ紙は欧州ビジネススクール・ランキングを発表し、リスボン・カトリカ大学ビジネススクールが 62 位にランクインし、リスボン新大学経済学部が 73 位にランクされた。エコール・デ・オート・ゼテュード・コメルシアル・ド・パリ、ロンドン・ビジネス・スクール上位 2 傑になっている。

### ●カモインス文学賞の発表 (12 日)

リオデジャネイロにてカモインス文学賞が発表さ

れ、ポルトガルの詩人であるマヌエル・アントニオ・ピーナが受賞した。